

## まえがき

本書は1998(平10)年に『職業と人間形成の社会学』として出版したものを、加筆、訂正、さらに大学での実践、諸外国のキャリア開発の動向も含めて『キャリア開発と職業指導——大学・高校のキャリア教育支援』として新たに編集したものである。今回は大学設置基準の改定による職業的自立に必要な能力を育てる教科書としても活用できるよう各種資料も含め実践報告も取り入れた。執筆者もその道の専門家に新しく依頼した。前著は職業指導関係の書籍が少ないこともあってか、筆者の予想していた以上に、大学の講義や高校の進路指導担当の先生方に活用され、貴重な意見や批判をいただいた。

その後の社会変化の中で、新規学卒の就職者中で最大の割合を占めるのが、高校から大学等の卒業生に移行した。就職をめぐる情勢も大きく変化し、有効求人倍率の減少、非正規雇用労働者の増加、ニート、フリーターなどの問題が社会の関心時となる状況が発生している。

本書は第1章で日本社会の変化と職業の大きな変革について述べ、近年の職業環境について考察した。第2章、第3章ではキャリア開発の中核としての職業指導に焦点を当て、理論的側面も論じた。第4章では、大学、高校を中心にキャリア開発について就職者の職業指導を中心に記した。さらに、今後ますます増加が予測される大卒就職者に対してどのようにキャリア開発の活動を行うか、その実務と実践について先行的取組みについて述べた。また、就職時に生じる現実的課題の解決法についても具体的に示した。第5章では欧米のキャリア開発の状況について現地の訪問調査も踏まえて記述した。

執筆中に食品の産地偽装や特捜検察官の証拠書類改ざん事件という職業倫理を疑われる問題が発生した。職業というものが、生計の維持、個性の発揮、社会的役割分担の3要素を、現実の社会の中でいかに個人がバランスをとって生きていくかという営みであるなら、現在の日本社会は職業の社会的役割の重要

性についての認識の欠落が目立つ社会であるといえるのではないか。それは各自の職業についての矜持と深く関わっている。本書がキャリア開発の中核である職業指導に関心のある多くの読者に活用いただけることを念じている。最後に出版に際して、お世話になった法律文化社編集部の小西英央、舟木和久の両氏に厚く御礼申し上げたい。

2011(平23)年 厳寒の京都にて

編著者一同